

評価者	共創計画部長	比留間 彰
-----	--------	-------

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

総合計画上の位置付け	分野	人権	施策の方針	人権施策の充実
目標とすべきまちの姿 人権問題が複雑・深刻化するなかで、「かまくら人権施策推進指針」に基づく施策の充実や、学校・家庭・地域間の緊密な連携により人権教育を推進することで、だれもが市民として尊重され、あらゆる分野への参画ができる社会になっています。 特に、行政、市民、地域社会、事業者など社会全体で男女共同参画社会の形成に取り組むことで男女共同参画の意識が根付き、子育て・介護などの家庭責任の男女間での分担、労働環境の向上、地域社会での助け合い、支え合いが実現しています。				

1 市民意識調査結果

(1) 認知度(回答者全体に占める割合)

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	令和元年度(2019年度)	40.5%	平成30年度(2018年度)	41.7%	平成29年度(2017年度)	45.7%
	平成28年度(2016年度)	43.7%	平成27年度(2015年度)	42.9%		

(2) 妥当性

**令和元年度(2019年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.0%	0.3%	0.0%
ちょうどよい	2.7%	31.2%	0.3%
効果不十分	7.8%	5.0%	5.1%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成30年度(2018年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.8%	0.0%	0.2%
ちょうどよい	4.8%	28.3%	1.2%
効果不十分	6.8%	4.1%	6.3%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成29年度(2017年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.9%	0.2%	0.0%
ちょうどよい	3.9%	24.1%	0.5%
効果不十分	8.7%	4.1%	4.1%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成28年度(2016年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	0.9%	1.4%	0.0%
ちょうどよい	3.4%	28.4%	0.5%
効果不十分	8.7%	4.1%	4.1%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**平成27年度(2015年度)**

お金の使い方

	使いすぎ	ちょうどよい	足りない
必要以上の効果	1.1%	0.0%	0.0%
ちょうどよい	2.0%	28.6%	0.0%
効果不十分	8.0%	4.9%	5.3%

仕事の効果

全体における位置(効果とお金の両方が「ちょうどよい」の割合)

**(3) 今後の進め方**

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
令和元年度(2019年度)	12.0%	33.6%	6.7%	47.7%
平成30年度(2018年度)	14.4%	30.4%	8.1%	47.1%
平成29年度(2017年度)	12.7%	27.6%	7.7%	52.0%
平成28年度(2016年度)	11.7%	32.3%	6.7%	49.2%
平成27年度(2015年度)	11.7%	31.3%	7.3%	49.6%

**2 内部評価**

**(1) 令和元年度(2019年度)の目標**

①性的マイノリティに寄り添う市の姿勢を示すため、パートナーシップ制度を実施する。(共創-16、17)  
 ②男女共同参画市民ネットワーク「アンサンブル21」の運営委員の活動を活性化し、男女共同参画社会の理念をさらに周知する。(共創-16)

**(2) 目標とすべきまちの姿と令和元年度(2019年度)の目標との関連性**

①性的マイノリティの認知を深め、誰もが自分らしく生きられる共生社会の実現を図る。(共創-16、17)  
 ②女性の社会参画や活躍を周知啓発することで、性別にかかわらず、だれもが市民として尊重され、あらゆる分野への参画ができる社会とする。(共創-16)

**(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)**

整理番号	評価対象事業名 事業名	決算値(千円)		職員数(人)		法定受託 事務	今後の 方向性	
		令和元年度 (2019年度)	平成30年度 (2018年度)	令和元 年度 (2019 年度)	平成 30年度 (2018年 度)		事業内容	予算規模
共創-16	男女共同参画推進事業	3,123	3,050	0.9	1.0	無	b	B
共創-17	人権啓発事業	2,489	3,246	1.0	1.1	無	b	B

**(4) 主な実施内容**

**【主な実施内容】**  
 ・人権尊重の意識高揚を図るため、講演会の開催や人権メッセージ展・街頭啓発活動、人権作文コンテスト、相談業務等の人権啓発事業を鎌倉市人権擁護委員会等の人権関係団体と連携して実施した。(共創-17)  
 ②市民団体であるアンサンブル21と協働し、より多くの参加者を呼び込めるセミナーやフォーラムを企画・開催して、男女共同参画社会の実現のための周知啓発を行うとともに、facebook「パスポート」を発信した。(共創-16)  
 ①性的マイノリティの方への支援と共生社会の実現を目指し、パートナーシップ制度を開始した。(共創-16、17)

**【実施できなかった事業とその理由等】**

**(5) 令和元年度(2019年度)の取組の評価**

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	<input type="checkbox"/> 適切	<input checked="" type="checkbox"/> 要改善

**<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等>**  
 ・人権擁護委員と協働し、相談業務や周知啓発活動、未就学児(保育園)の人権教育、中学生の人権作文コンテストの実施等、人権啓発事業への継続した取組みやアンサンブル21との協働による講演会等(フォーラム)の開催を行ったが、人権施策事業としての市民全体の認知度が高まったとは言えず、また講演会等の参加年齢層の偏りなど、改善すべき点があるため、効率性、妥当性、有効性、公平性ともに要改善とした。  
 ・性的マイノリティの方への支援と共生社会の実現を目指し、パートナーシップ制度を新たに開始したことは、大きな前進と捉えている。(共創-16、17)

### 3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	共創-16	事業名	男女共同参画推進事業					単位	%	指標の傾向	↘	備考
指標の内容	審議会等の女性委員の割合											
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)					
政策・方針決定過程への女性の参画の指標として全国的に取り入れられているため。	目標値	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0	30.0					
	実績値	27.3	26.8	24.7	25.2	28.4	27.3					
	達成率	91.0%	89.3%	82.3%	84.0%	94.7%	91.0%					
整理番号	共創-17	事業名	人権啓発事業					単位	回	指標の傾向	↘	備考
指標の内容	人権擁護委員による保育園での人権教育(紙芝居)											
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)					
未就学の段階で人権意識の高揚を図ることが重要であるため。	目標値	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0					
	実績値	4.0	12.0	10.0	6.0	5.0	5.0					
	達成率	40.0%	120.0%	100.0%	60.0%	50.0%	50.0%					